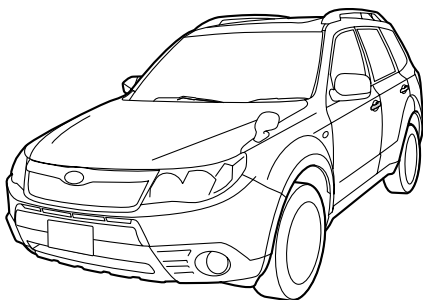


このたびは「フォレスター」を お買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は車両の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用前に必ずお読みください。
また、法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任が
うたわれております。別冊の「メンテナンスノート」と併せてお読みください。



- 交通ルール・マナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護にも気をくばりましょう。
- 「ナビゲーションシステム」の取り扱いについては、別冊の取扱説明書をお読みください。
- スバル販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために保証の有無にかかわらず取扱説明書、メンテナンスノートをお車につけておゆずりください。
- 装備については販売店でカタログをご請求ください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。


車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますので
ご了承ください。


本書の見かた

表示やマークについて


安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が傷害を受ける可能性のあることや、車体が損傷する可能性があることを、回避法とともに示しています。


 警告	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害を負う可能性があります。
---	----------------------------------


 注意	指示に従わないと、傷害を負う可能性があります。 また、車体が損傷する可能性があります。
---	--

禁止行為は禁止マークが入っています。

	禁止事項を示しています。
---	--------------

その他の表示

 アドバイス	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと
--	-------------------------------


	グレードなどにより異なる装備については よつばマークがついています。
---	---------------------------------------

本文の見かた

タイトル
階層により区別してあります。

ヘッダー
ページの内容を案内しています。

ツメタイトル
各章のタイトルを案内しています。

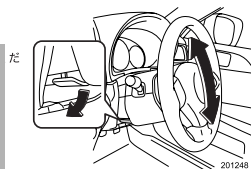
 **前ページを参照ください。**

ハンドルとミラーの調整

チルトステアリング

運転姿勢に合わせてハンドル位置を上下に調整できます。

- ①チルトレバーを押し下げます。
- ②ハンドル位置を合わせます。



だ

動いて危険です。
表に固定してください。固定が不十分な重大な事故につながる可能性があります。

ステアリング

たは上下に調整できます。

げ

げ

だ



運転する前に

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動（マニュアル車）

●エンジンをかける前に

- ①駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
- ②チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

●エンジンのかけかた

- ①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ②クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。
- ③エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

🏠 アドバイス

<クラッチスタートシステム>

マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱい踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかからないようになっています。

■エンジンの始動（オートマチック車）

●エンジンをかける前に

- ①駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
- ②セレクトレバーが[P]であることを確認します。（[N]でも始動できますが、安全のため[P]で始動してください。）

●エンジンのかけかた

- ①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ②エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

⚠️ 警告

車庫や屋内などの換気の悪いところで、エンジンをかけたままにしないでください。
車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠️ 注意

エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。
10秒以上スターターを回し続けしないでください。
スターターが故障する原因になります。からならないときは一旦、スイッチをOFFに戻し、10秒間放置してからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回します。
エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドリング回転が高めに保たれます。

3-30

2-93

警告
前ページを参照ください。

注意
前ページを参照ください。

アドバイス
前ページを参照ください。

※このページはサンプルページです。記載されている内容は実際のお車とは異なります。

検索について

本書では、色々な方法で目的のものを検索できるようにしてあります。

エアコンの使い方は？

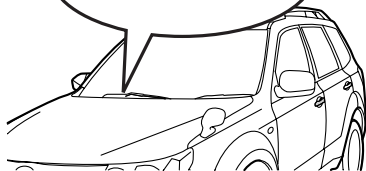
4 室内装備品の使いかた

エアコン	
吹き出し口の調整	4-2
吹き出し口表示と使用目的	4-3
マニュアルエアコン	4-5
フルオートエアコン (シングルタイプ)	4-9
フルオートエアコン (左右独立タイプ)	4-17

タイトルから探す

- 本書の目次
- ツメタイトル
- 各章の目次

ワイパーを動かしたい



場所から探す

イラスト目次イラスト目次ページ

シートの調整方法は？

し	
CDについて	4-16
シートの調整	2-36, 2-37
シートヒーター	2-38
シートベルト	2-47
シートベルト警告灯	3-25

名称から探す

さくいん さくいんページ

MEMO

本書の目次

イラスト目次

1

必読！安全で快適な
運転のポイント

1-1

- お車をお使いいただく上で…1-2
- お出かけ前には…1-4
- 燃料補給時の注意…1-8

2

運転する前に

2-1

- キーレスアクセス&プッシュ
スタート…2-2
- 各部の開閉…2-31

3

運転するとき

3-1

- スイッチの使いかた…3-2
- メーター、表示灯、警告灯の
見かた…3-20
- 運転装置の使いかた…3-40

4

室内装備品の使いかた

4-1

- エアコン…4-2

5

寒冷地での使いかた

5-1

- 冬の前の準備、点検…5-2

6

日常点検・車の手入れ

6-1

- 日常点検…6-2

7

万一のとき

7-1

- 工具、スペアタイヤ…7-2
- パンクしたとき…7-8
- 発炎筒…7-14

8

サービスデータ

8-1

さくいん

- お子さまを乗せるときの注意…1-10
- オートマチック車の特徴と運転上の注意…1-13
- 走行するときには…1-17
- 雪道走行するときには…1-23
- 駐・停車するときには…1-24
- SRSエアバッグシステム…1-28
- こんなことにも注意を…1-30
- 保証書・メンテナンスノートについて…1-34

1

- シート…2-60
- シートベルト…2-73
- お子さまの安全…2-83
- SRSエアバッグシステム…2-96
- ハンドルとミラーの調整…2-114

2

- マニュアル車の運転…3-43
- オートマチック車の運転…3-47
- AWD車の運転…3-63
- クルーズコントロール…3-66
- ブレーキ…3-71
- VDC…3-75
- ハンドル…3-86

3

- 室内装備…4-20

4

- 走行する前に…5-6
- 走行するとき、駐車するとき、洗車するとき…5-9

5

- 車の手入れ…6-10

6

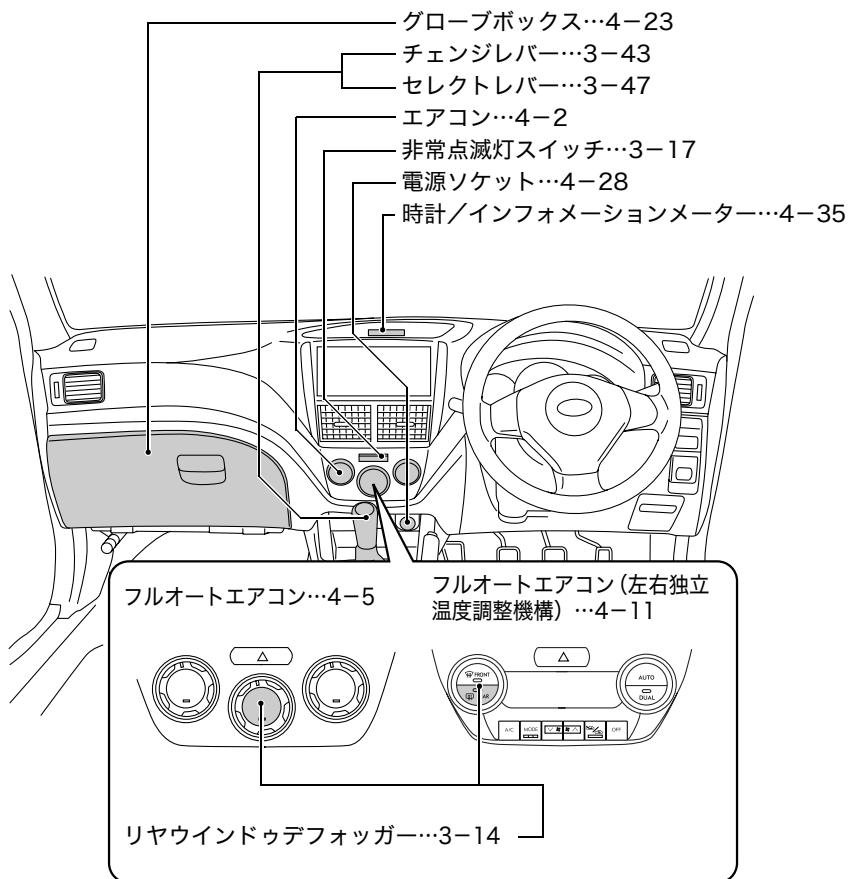
- 故障したとき…7-16
- けん引のとき…7-18
- オーバーヒートしたとき…7-24
- バッテリーが上がったとき…7-27
- 事故が起きたとき…7-30

7

8

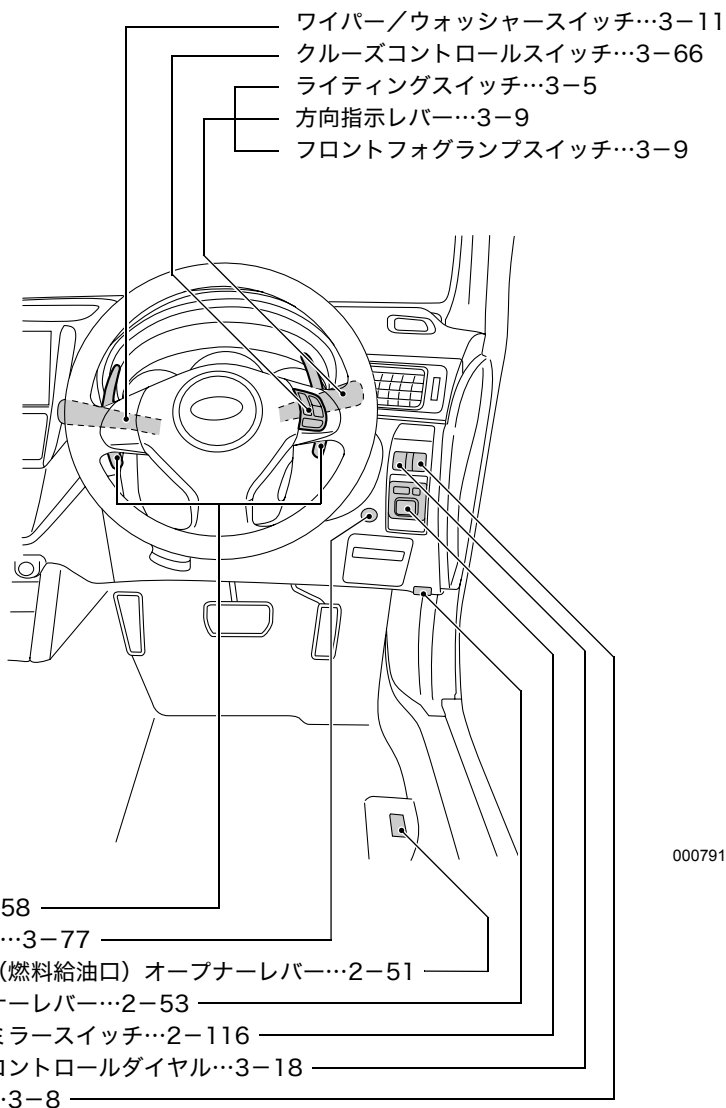
イラスト目次

インストルメントパネル周辺



000704

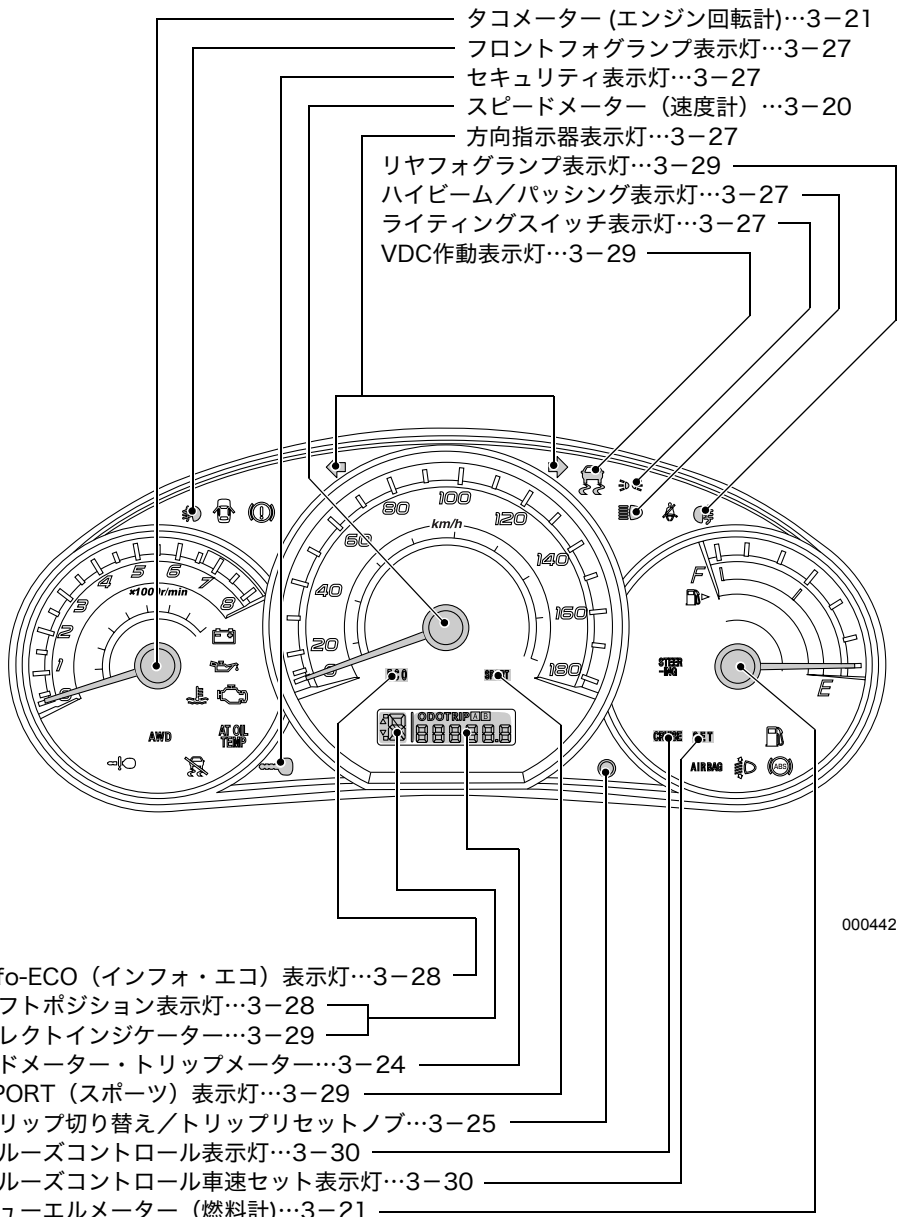
ハンドル周辺



000791

メーター・表示灯

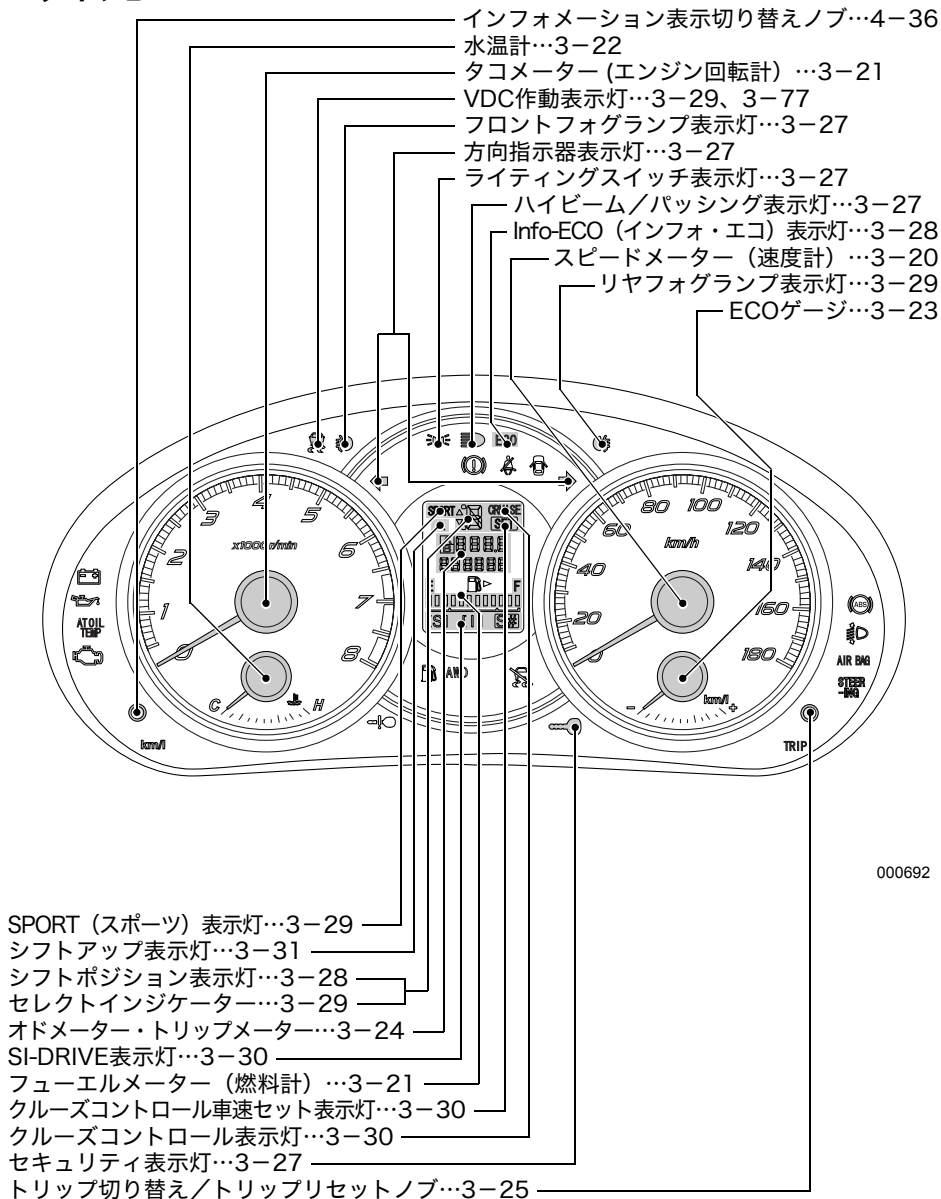
<タイプA>



000442

※ グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

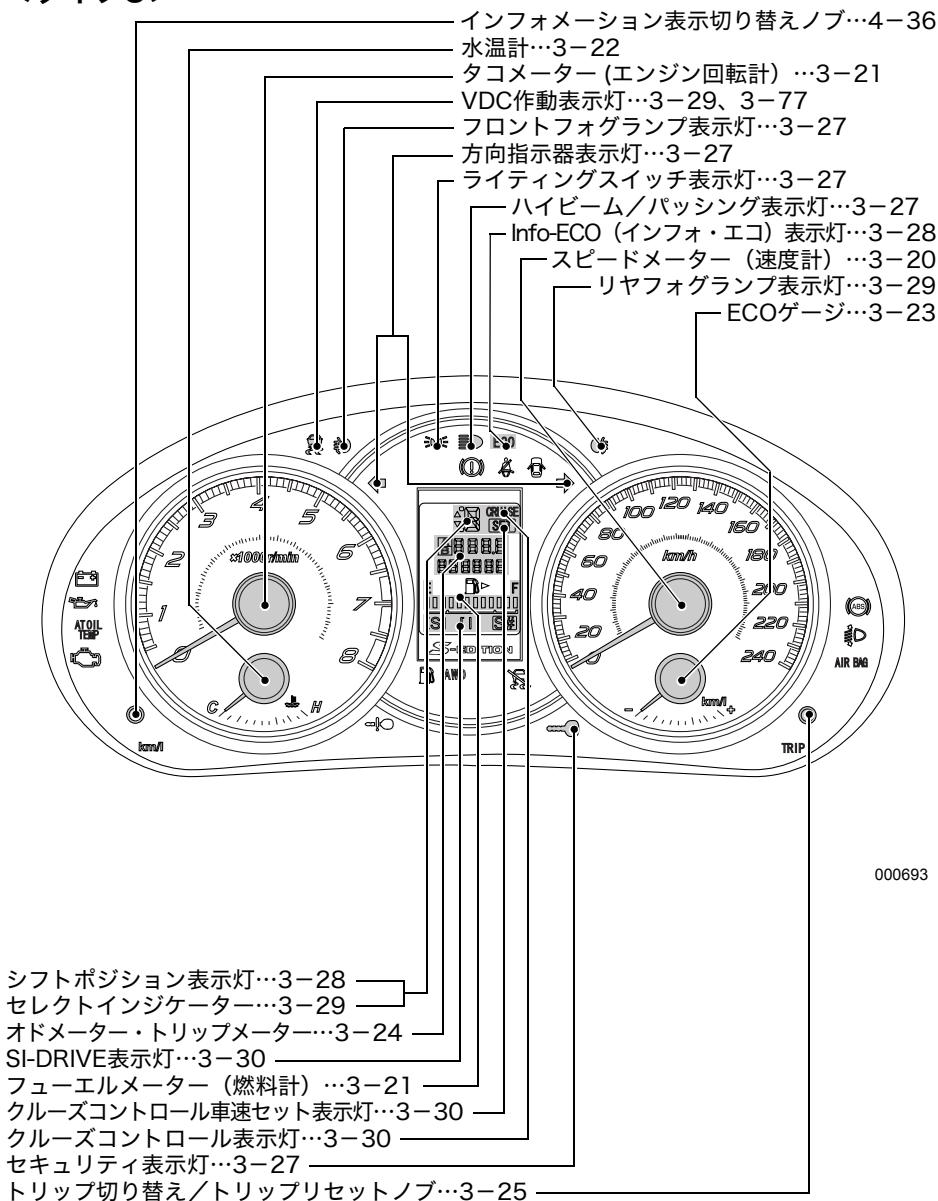
<タイプB>



000692

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

<タイプC>

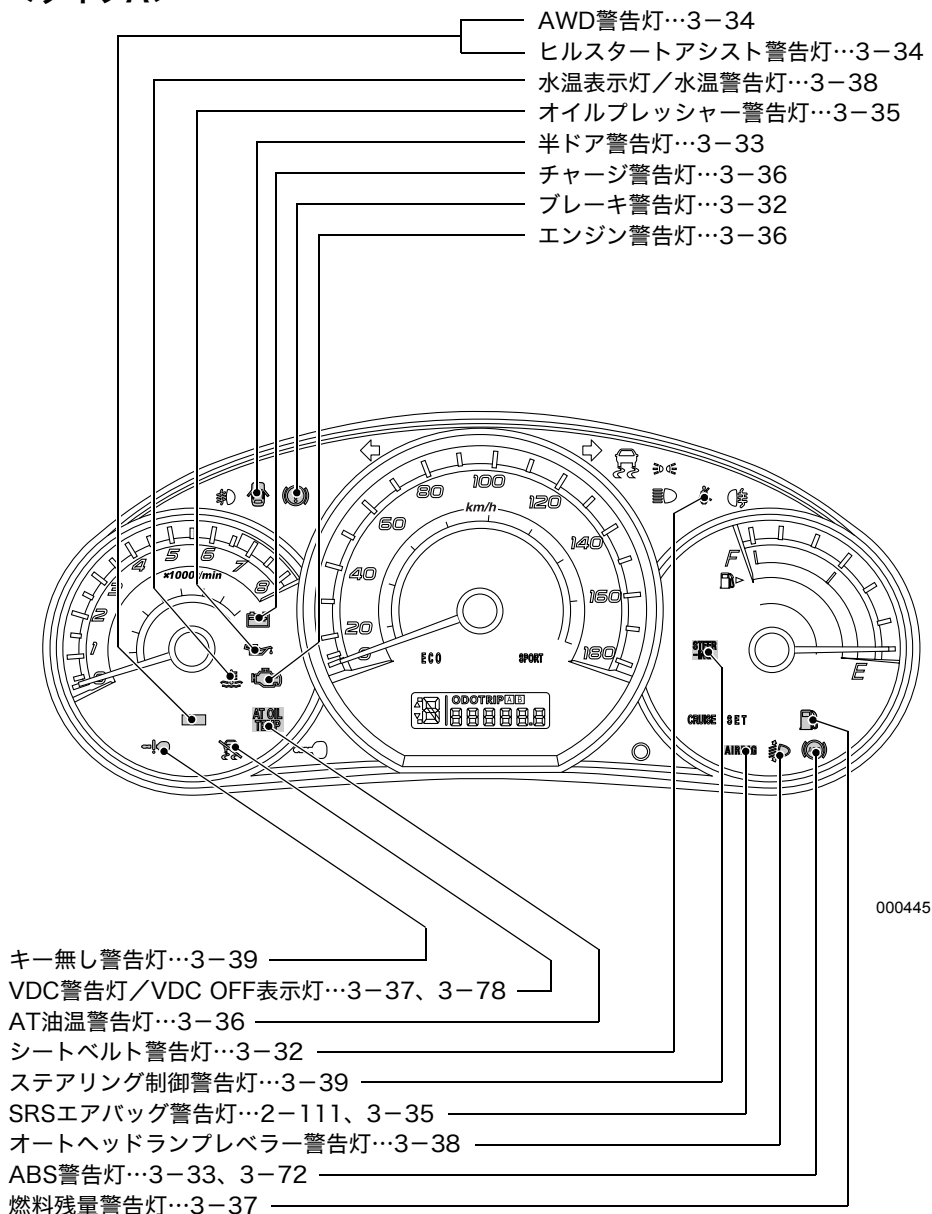


000693

※ グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

警告灯

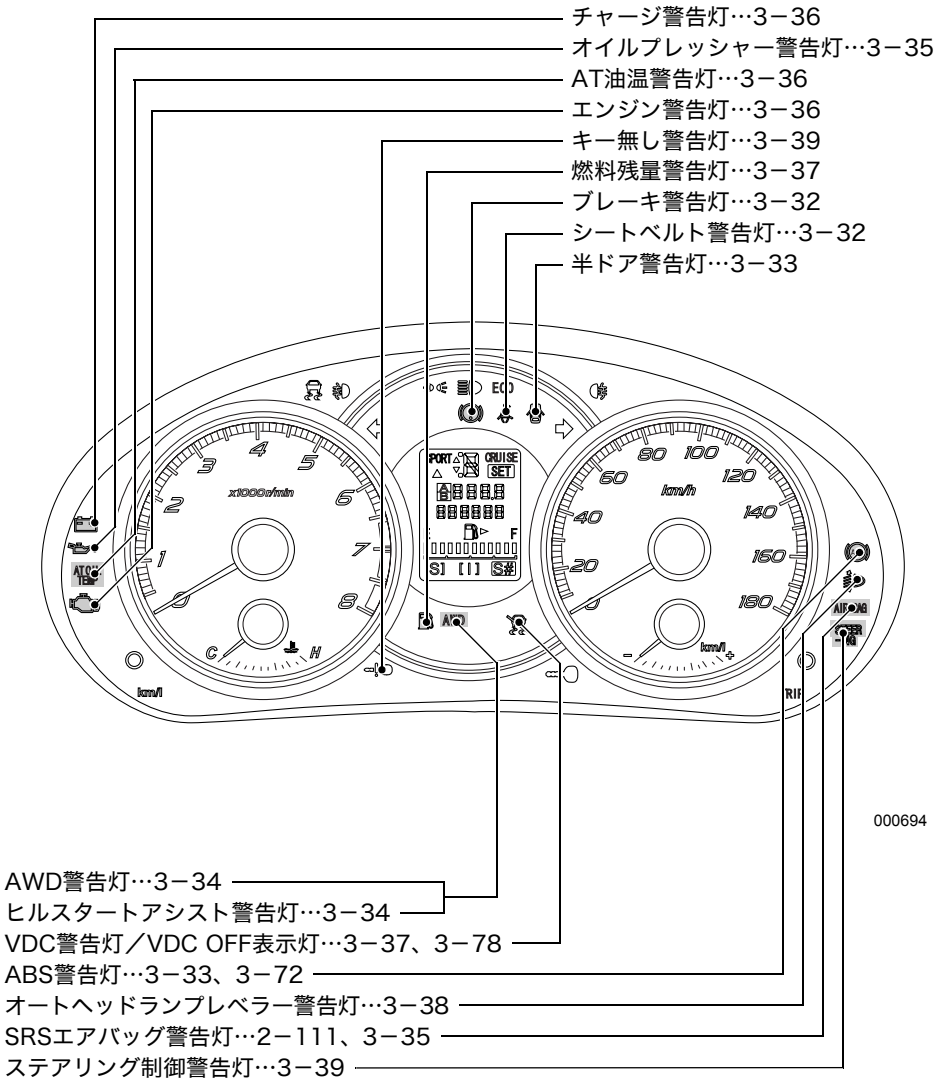
<タイプA>



000445

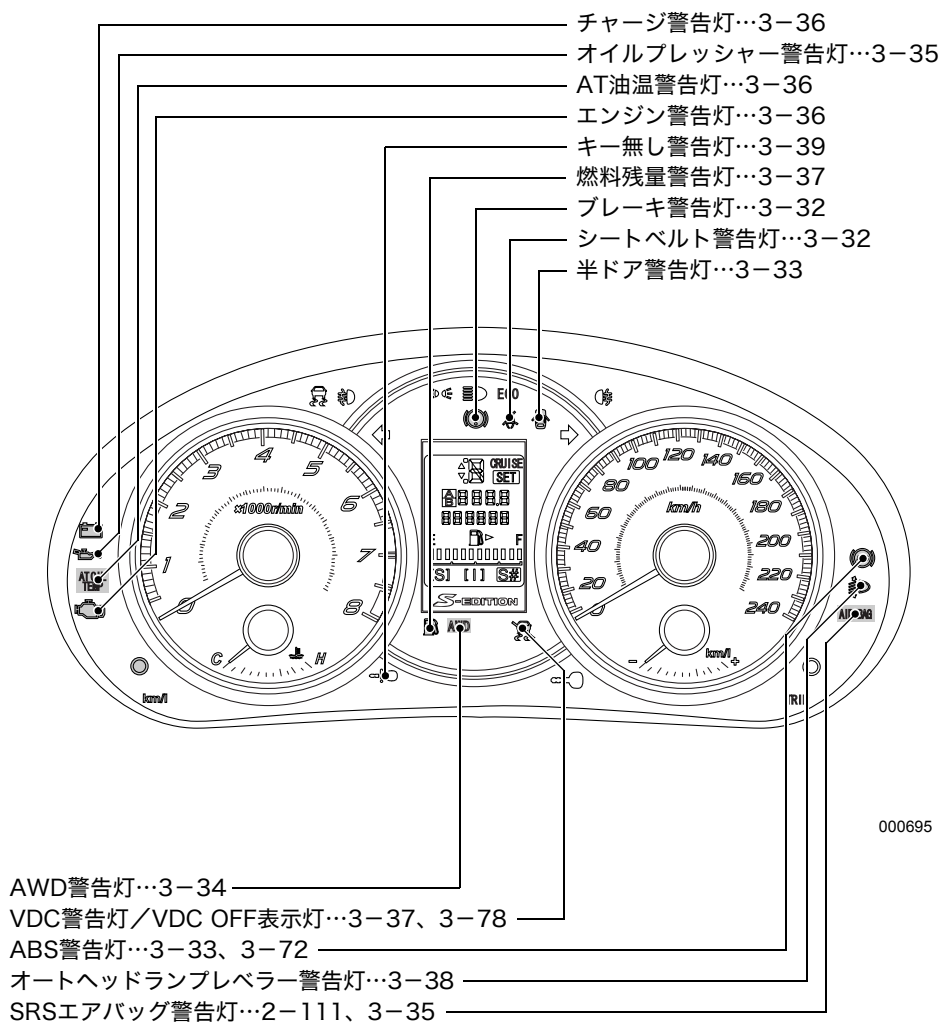
※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

<タイプB>



※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

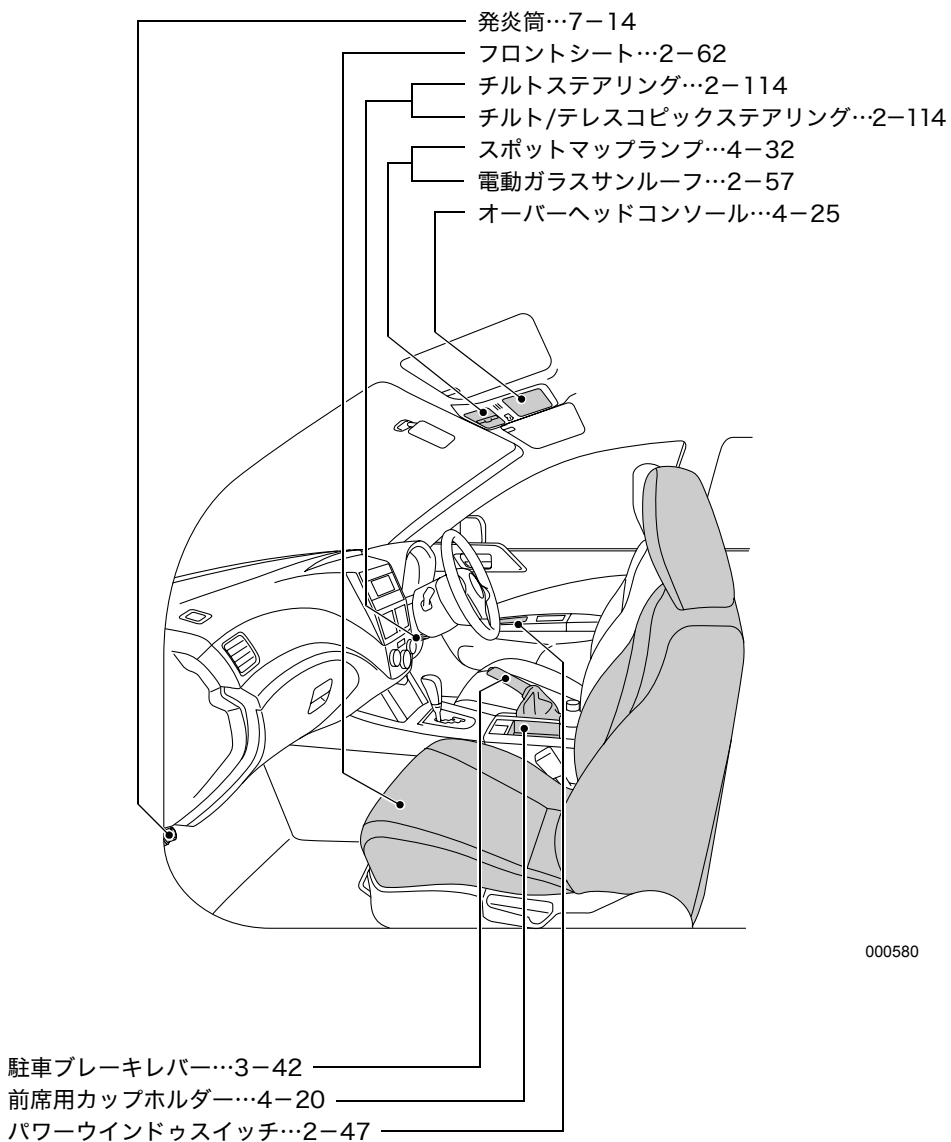
<タイプC>



000695

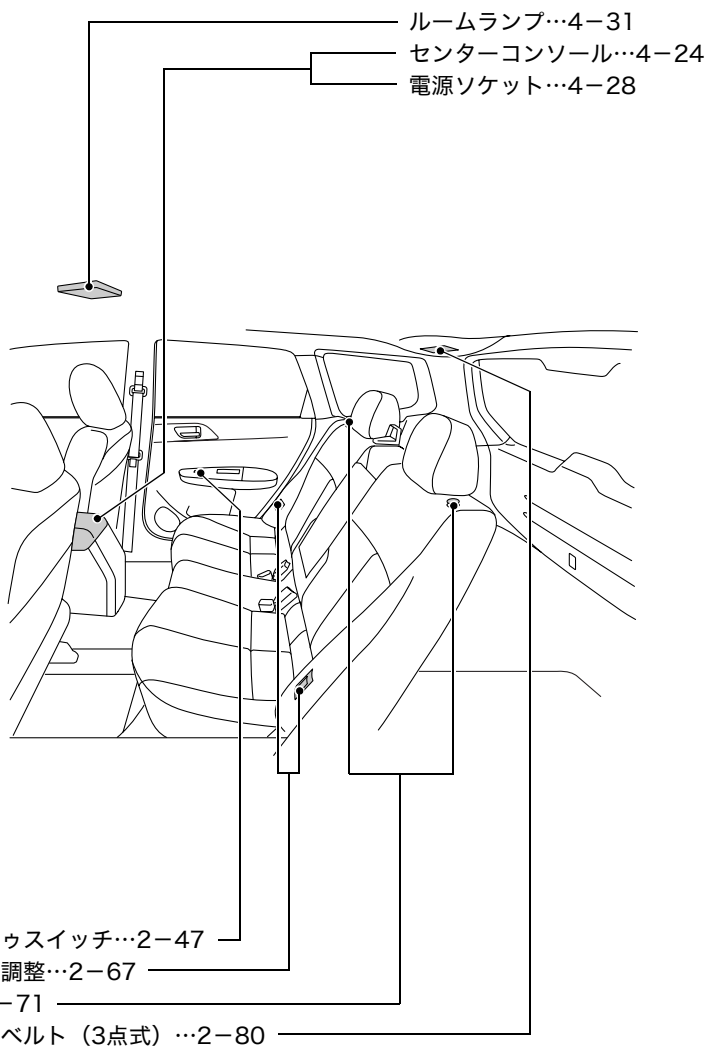
※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

室内・前側



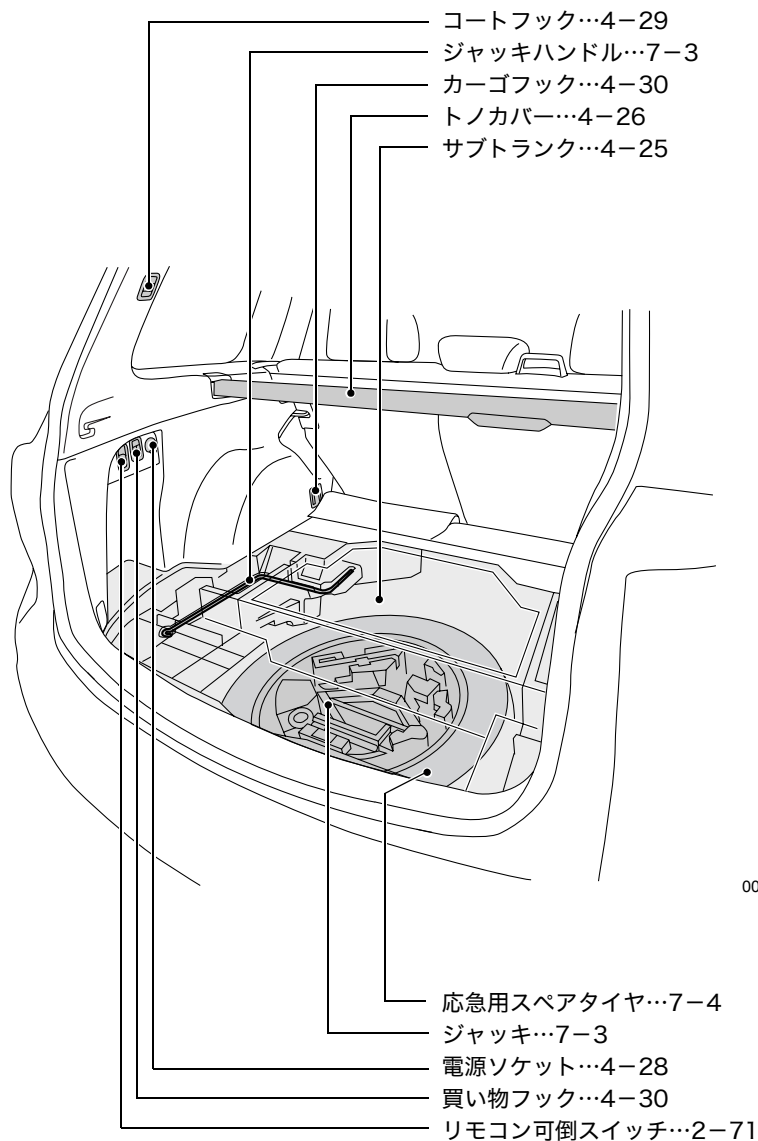
000580

室内・後側

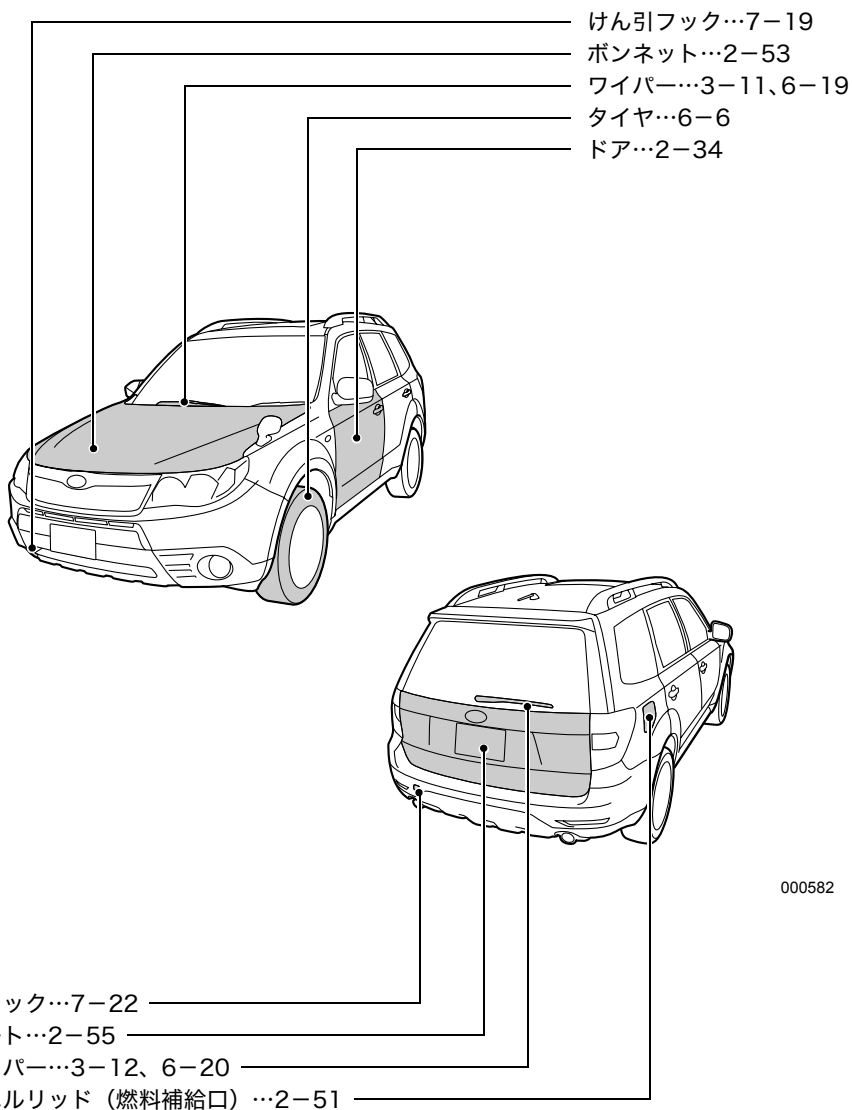


000581

荷室



外観



000582

MEMO

1

必読！安全で快適な 運転のポイント

お車をお使いいただく上で	1 - 2
お出かけ前には	1 - 4
燃料補給時の注意	1 - 8
お子さまを乗せるときの注意	1 - 10
オートマチック車の特徴と運転上の注意	1 - 13
走行するときには	1 - 17
雪道走行するときには	1 - 23
駐・停車するときには	1 - 24
SRSエアバッグシステム	1 - 28
こんなことにも注意を	1 - 30
保証書・メンテナンスノートについて	1 - 34

お車をお使いいただく上で

■ユーザーカスタマイズ機能

- お客様のお好みにより、機能の設定を変更することができます。スバル販売店にて変更することができますので、詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- 盗難警報装置については、本書の使用説明、注意事項をよく読み、お客様のお好みや、駐車場所の状況により設定してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

項目	機能の内容	設定	初期設定	参照ページ
盗難警報装置	警報の作動※1	作動あり／作動なし	作動なし	☆2-43ページ
	警報の監視開始時間の設定	0秒／30秒	30秒	※2
	衝撃センサーの作動 (ディーラーオプション)	作動あり／作動なし	作動なし	※2
	衝撃センサーの感度 (ディーラーオプション)	11段階の中から 設定可能	標準	※2
キーレス エントリー ／キーレス アクセス	非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅作動	作動あり／作動なし	作動あり	※2
	ブザー吹鳴の作動（キーレスアクセスのみ）	作動あり／作動なし	作動あり	※2
	自動施錠の作動	作動あり／作動なし	作動あり	※2
	自動施錠の作動時間	20秒～60秒の間で 設定可能	30秒	※2
キー閉じ込み防止	キー閉じ込み防止の作動	作動あり／作動なし	作動あり	※2
リヤウインドウデフォグガー（フロントワイパーデアイサー）	リヤウインドウデフォグガーの作動（フロントワイパーデアイサーと連動）	15分作動／連続作動	15分作動	※2
ルームランプ	ルームランプおよびスポットマップランプオフディレイの作動時間	OFF、短、標準、長	長	※2
	警報作動時のルームランプおよびスポットマップランプ点灯の作動	作動あり／作動なし	作動なし	
バッテリー上がり防止機能	バッテリー上がり防止機能の作動	作動あり／作動なし	作動あり	※2

※1 警報の作動についてはキー操作で設定することもできます。

※2 スバル販売店でのみ変更となります。

■キーナンバープレート、セキュリティ IDプレートの保管

- キーナンバーは合いかぎを作るときに、またセキュリティ IDナンバーは作った合いかぎをイモビライザーへ登録するときに、必要となります。これらのナンバーが打刻してあるプレートは、盗難防止のため車の中には置かず、大切に保管してください。
- イモビライザー機能装備車は、キーを紛失したときに盗難事故を防ぐため、全てのキーのイモビライザー再登録が必要となります。このとき、セキュリティ IDプレートとお手持ちの全てのキーをスバル販売店にお持ちになってください。

☆2-31ページ参照

■盗難警報装置について

キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）以外でドアが開けられたとき、または車両が衝撃を受けたとき（ディーラーオプションの衝撃センサー装着車のみ）に警報（ホーン音と非常点滅灯の点滅）で周囲に異常を知らせる装置です。また、下記のように警報が作動する場合、または作動しない場合がありますので取り扱いには充分注意してお使いください。

- キーによる施錠、車内からのキーを使わない施錠では盗難警報装置は監視状態（警報が作動可能な状態）になりません。
- 盗難警報装置が監視状態（警報が作動可能な状態）のとき、キーで解錠した場合、車内からキーを使わずに解錠した場合、盗難警報装置は解除されません。そのままドアを開けてしまうと警報が作動します。

☆2-35ページ参照

また、警報を作動させてしまったときには解除方法として以下のいずれかの操作をすると解除できます。

▼キーレスアクセス&プッシュスタート装着車

- アクセスキーのいずれかのボタンを押す
- アクセスキーを携帯し、リクエストスイッチを押す
- アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを押してAccにする

▼キーレスアクセス&プッシュスタート装着車以外

- リモコンキーのいずれかのボタンを押す
- エンジンスイッチにキーを差し込み、エンジンスイッチをONにする

☆2-42ページ参照

お出かけ前には

■点検整備を実施して

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。

☆「メンテナンスノート」参照

■タイヤ空気圧を点検して

タイヤ空気圧の点検は法律で義務づけられています。タイヤ空気圧は空気圧ゲージを使用して、ドライブの前や、定期的（最低月1回程度）に点検・調整してください。応急用スペアタイヤも忘れずに点検・調整してください。タイヤ空気圧が不足したまま走行すると、走行不安定やバースト（破裂）を招き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆6-7ページ参照

■バッテリーの液量はときどき点検して

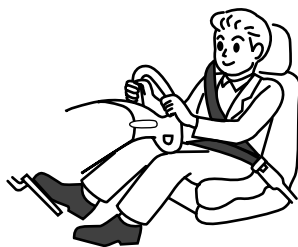
バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用、または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ないときは上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

☆「メンテナンスノート」参照

■正しい運転姿勢に調整して

走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。

☆2-60、2-114ページ参照



100028

■シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
- 乗員は全員、シートベルトを着用してください。後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRSエアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

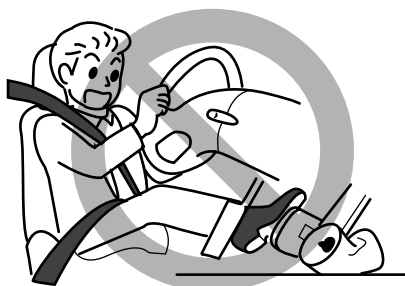
☆2-73ページ参照



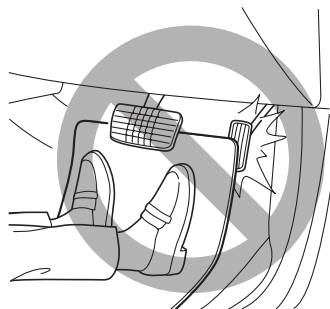
100029

■運転席の足元はすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を放置しないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットは車に合ったものを正しく敷いてずれないように固定クリップなどで固定してください。また、フロアマットを2枚以上重ねて使用しないでください。フロアマットがずれてアクセルペダルやブレーキペダルに引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



100230



100972

■サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■室内に荷物を積むとき

- 荷物はできるだけ低くし、背当ての高さ以上に積まないでください。ブレーキを踏んだとき荷物が移動し、思わぬ事故につながる可能性があります。
- トノカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし、けがをするおそれがあり危険です。

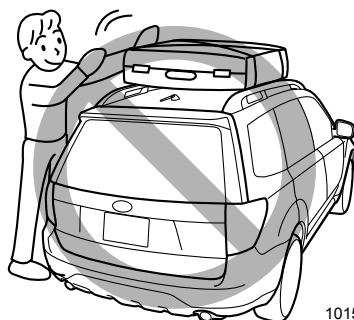
☆4-26ページ参照



100231

■ルーフに荷物を積むとき

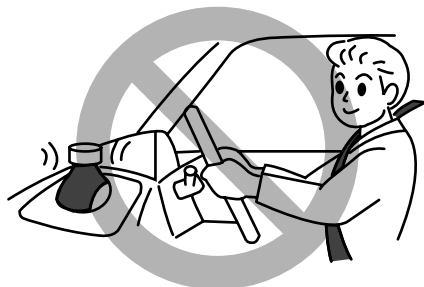
- ルーフやルーフレールに直接荷物を積んだり、不用意にロープ掛けをしないでください。荷くずれを起こしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ルーフに荷物を積むときは、別売のスバル純正ルーフキャリアおよびアタッチメントを使用してください。スバル純正品以外を使いますと、車体に損傷を与えることがあります。
- 走行中荷物が落下すると危険ですので、確実に荷物を固定してください。
- 固定方法や最大積載量などの取り扱い上の注意については、ルーフキャリアおよびアタッチメントに添付の取扱説明書を必ずお読みください。



101508

■インストルメントパネルの上やスイッチの近くに物を置かないで

- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いて安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スwitchの近くに物を置かないでください。走行中に突然スイッチが押され、思わぬ機能が作動したり、場合によっては故障や加熱・火災の原因になります。
- SRSエアバッグが作動したときの衝撃で物が飛び、思わぬ事故につながるおそれがあります。



100232

☆2-96、2-99、2-100、2-101ページ参照

■危険物の持ち込みはやめて

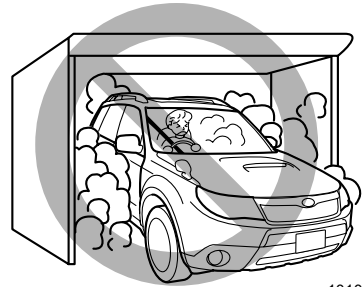
燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは、炎天下で車内が高温になったとき、火災の原因になるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。



100233

■排気ガスの換気に気をつけて

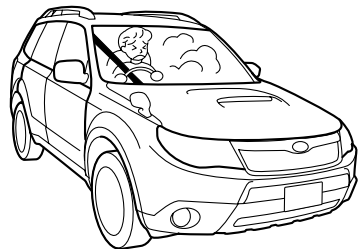
車庫など換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。車内や車庫などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



101074

■車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら

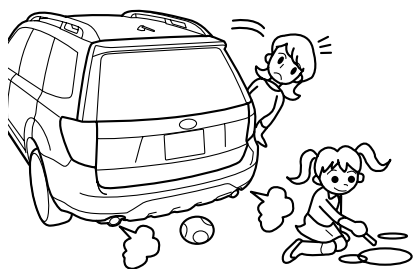
すみやかに窓を開け、換気してください。そのまま放置すると、排気ガスにより一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



101075

■車の後ろに気をつけて

- お子さまや障害物など、車のまわりの安全を充分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。



101076

■こんなとき、スバル販売店で点検を受けて

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくとは走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音やにおいや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れたあとが残っているとき
- 各警告灯が点灯・点滅したままのとき

燃料補給時の注意

■必ず指定燃料をご使用ください

- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
- ターボ車以外は無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ターボ車は無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）を使用してください。

無鉛プレミアムガソリンが入手できないときは無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、エンジン性能を充分発揮できないこともあります。また、ノッキングが起りやすくなり、始動性も悪くなる場合があります。

指定ガソリンは、フューエルリッド（燃料補給口）の裏に記載されています。

- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、軽油、アルコール系燃料など）やガソリン添加剤を使用すると、エンジンの始動性が悪くなり、ノッキングが発生し、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンや燃料系統部品が損傷するおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

■燃料補給時には必ず次のこととお守りください

- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- 燃料給油時は火気厳禁です。
タバコなどの火気を絶対に近づけないでください。引火して火災を引き起こすおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。
- 燃料の取り扱い屋外で行ってください。
- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります、やけどするおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がしたときは、その音が止まってからゆっくり開けてください。急に開けると給油口より燃料の吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど、給油操作は必ずお一人で行ってください。給油口に他の人を近づけないでください。
- 給油するときは給油口に給油ガンのノズルを確実に挿入してください。
ノズルを浮かしたり、浅く挿入し継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油中は、車内のシートに戻らないでください（座ることで帯電することがあります）。
- 給油は、給油ガンが自動停止した時点でお止めください。気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料補給後は、フューエルキャップを“カチツ、カチツ”と音がするまで右に回し、確実に締まっていることを確認してください。キャップが確実に締まっていないと走行中に燃料が漏れ、火災になるおそれがあります。
- 車に合ったスバル純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。

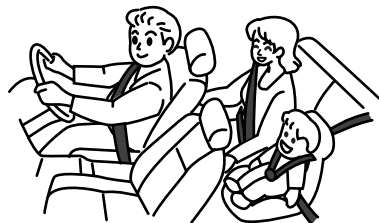
■給油時に気化した燃料を吸いこまないように注意してください

燃料の成分には有害な物質を含んでいるものもあります。気化した燃料を吸いこまないよう、ご注意ください。

お子さまを乗せるときの注意

■ お子さまは後席に

助手席ではお子さまの動作が気になったり、お子さまが運転装置にさわって思わぬ事故につながるおそれがあります。お子さまは後席に座らせ、必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができない場合は、チャイルドシートを後席に取り付けて使用してください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。



☆2-97ページ参照

100036

■ チャイルドシートを使用して

- お子さまの年齢や体格に合わせ、適切なお子さま専用シートを選んでください。
- お子さま専用シートの取り付け方法および取り外し方法は、それぞれのお子さま専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は、2006年10月1日施行の新保安基準に適合したISO FIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。
- ECE R44[※]の基準に適合するお子さま専用シートは、お子さまの体重によって次の5つの質量グループに分類されます。

グループ0 : ~10 kg

グループ0+ : ~13 kg

グループⅠ : 9~18 kg

グループⅡ : 15~25 kg

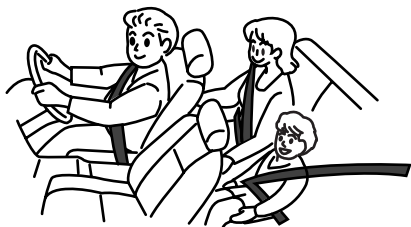
グループⅢ : 22~36 kg

※ECE R44は、チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でもロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■お子さまにも必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調整し着用させてください。適正な位置でシートベルトを着用できないお子さまには、チャイルドシートを使用してください。
- 膝の上でお子さまを抱いていると、衝突したとき十分に支えることができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは一人用です。お子さまを抱いたままでのシートベルトの着用は絶対にしないでください。
- お子さまをSRSエアバッグの前やシートの上に立たせた状態では走行しないでください。



100037



100234

■ドアの開閉に注意して

- 開閉、施錠は必ず大人が行ってください。開閉するときはお子さまの手や足などを挟まないように注意してください。また、安全のため、チャイルドブルーフをご利用ください。

☆2-46ページ参照

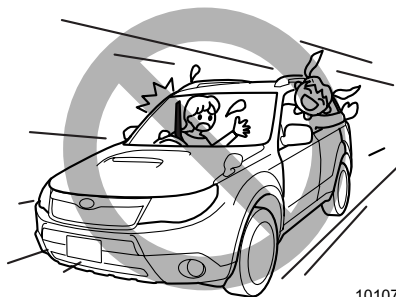
- ドア開閉時、爪などを挟まないようにご注意ください。



101077

■窓から顔や手を出させないで

走行中、車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に思わぬけがをするおそれがあり危険です。



101078

■パワーウィンドゥに気をつけて

- パワーウィンドゥが閉まる時には大きな力が働きます。挟まれると危険ですので、操作をする前にお子さまが窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので、小さなお子さまには操作をさせないでください。
- お子さまを乗せるときには、パワーウィンドゥのロックスイッチをロックにしておいてください。
お子さまがウィンドゥスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

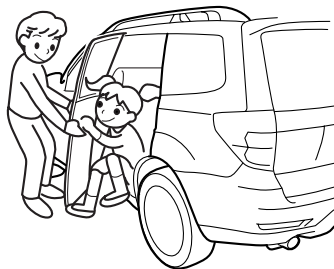


100235

☆2-47ページ参照

■車から離れるときは一緒に

- とくに乳児など小さなお子さまや介護を必要とする方は、車内に残さないでください。炎天下の車内は高温となり、熱射病などにつながるおそれがあります。
エアコンを作動させていても途中で止まることがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 駐車ブレーキなど、運転装置のいたずらにより思わぬ事故につながるおそれがあります。



101079

オートマチック車の特徴と運転上の注意


■クリーブ現象があります

- エンジンがかかっているとき、アクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出す現象を、クリーブ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルを踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などは、自動的にエンジン回転数が上がるため（アイドルアップ）、クリーブ現象が強くなる場合がありますので、ブレーキペダルを確実に踏んでください。必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。



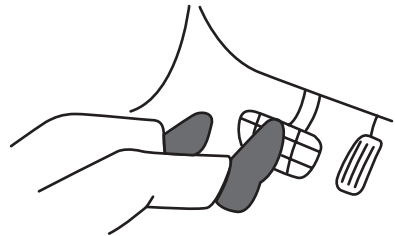
101080

■強い加速を必要とするときキックダウンができます

- 走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。
- マニュアルモードを選択しているときは、キックダウンは行われません。キックダウンを行う必要のあるときは、に戻してください。

■ブレーキペダルは右足で

- エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応がおくれることがあり危険です。



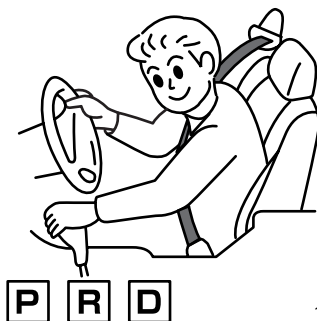
100953

■セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時、セレクトレバーの操作を行うときは、アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏みながら操作をしてください。
- エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないで[P]から動かないようになっています。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進防止のため、後退した後はセレクトレバーをすみやかに[R]から[P]または[N]にする習慣をつけてください。

■セレクトレバー位置は目で確認

エンジンをかけるときは[P]、前進するときは[D]、後退するときは[R]の位置にあることを目で確認してください。



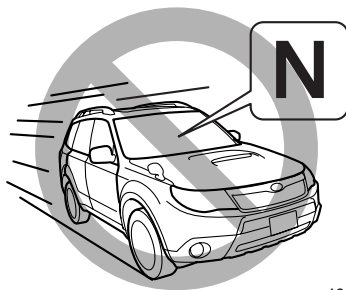
100078

■発進時、アクセルペダルの踏み込みはゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。発進時はゆっくりとアクセルペダルを踏み込んでください。

■走行中はセレクトレバーを[N]にしないで

エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、オイルポンプが停止するためトランスミッションの損傷の原因になります。



101081

■走行中（前進時）は、[R]にしないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

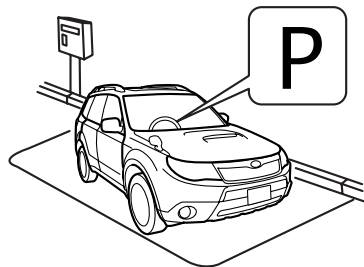
■車が完全に止まらないうちに[P]に入れないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

■駐車するときは[P]にして、駐車ブレーキを確実に

車が動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。セレクトレバーを[P]にし、駐車ブレーキも必ずかけてください。

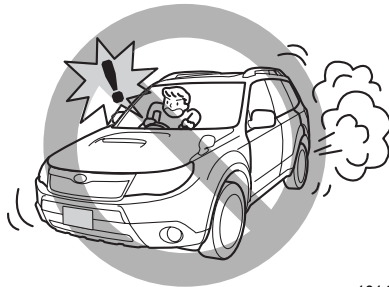
☆1-24ページ参照



101082

■停車中は空吹かしをしないで

思わぬ事故につながるおそれがありますので、空吹かしをしないでください。



101496

■車から離れるときはエンジンを止めて

- クリーブ現象で車がひとりりで動いたり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーを[P]にして駐車ブレーキを確実にかけエンジンを切ってください。



101080

■ **R**に入れるとブザーが鳴ります

Rに入れるとブザーが鳴り、**R**であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。

■ シフトロックシステムがついています

シフトロックシステムは、セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- **P**からのレバー操作は、エンジンスイッチをONにしブレーキペダルを踏まないで操作できません。
- セレクトレバーを**P**から他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- **P**以外ではエンジンスイッチからキーが抜けず、または電源をOFFにできません。
(**P**以外ではキーをAccからLOCKまたはOFFにできません)
- **N**でエンジンスイッチをOFFにした場合、しばらくするとレバーを**P**に操作することができなくなる場合がありますので、OFFにした後は直ちにブレーキペダルを踏みながら**P**に操作してください。

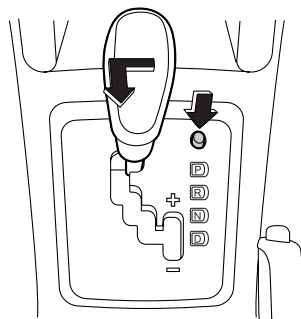
もし、セレクトレバーを**N**から**P**に操作できないときは、エンジンスイッチをONにし、ブレーキペダルを踏みながら**P**へ操作してください。

- エンジンスイッチがONで操作できないときは、エンジンスイッチをONからAcc※にし、ブレーキペダルを踏みながら**P**へ操作してください。(60秒以内)
エンジンスイッチがONで操作できないときは、シフトロックシステムなどの異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。
※ キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は、**P**以外でエンジン回転中にエンジンスイッチを押してエンジンを停止させた電源状態がAccになります。

■ **P**からのセレクトレバー操作ができないとき

エンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバー操作ができないときは、次の手順でシフトロックを解除してください。

- ① 駐車ブレーキレバーを引きます。
- ② ブレーキペダルを踏みます。
- ③ シフトロック解除ボタンを押しながらセレクトレバーを操作します。



301196

セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

走行するときには

■ タイヤ交換のときは

4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能に影響し、事故につながる可能性があります。タイヤの交換を行う場合は、下記の事項をお守りください。

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、後輪に装着してください。

☆6-16、7-4ページ参照

■ 走行中異常があったら

- 警告灯が点灯したら、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡してください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3-32ページ参照

- ボンネットを開けてチェックするときは、高温部に触れないでください。ボンネット内部は高温になっており、やけどをすることがあります。
- エンジンの回転部分には絶対に触れないでください。重大な傷害を負うおそれがあります。
- エンジンルームから水蒸気が吹き出しているときは絶対にボンネットを開けないでください。

☆7-24ページ参照

- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずにハンドルを確実に握り、急ブレーキを踏まずに徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所に直ちに車を止め、ブレーキ液や燃料の漏れ、オイル漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。やけどの危険がありますので排気管には触れないように注意してください。損傷や異常がある場合は、スバル販売店に連絡してください。



101084

■ペダルに足をのせたまま運転しないで

ブレーキペダルやクラッチペダルに足をのせたまま運転しないでください。ブレーキやクラッチの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。



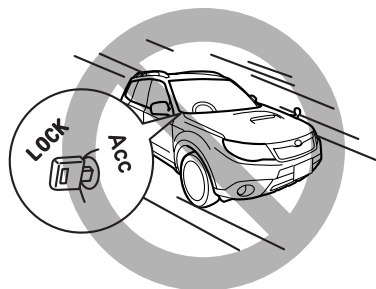
100236

■走行中はエンジンスイッチを切らないで

- 走行中エンジンを止めるとブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3-86ページ参照

- 走行中エンジンスイッチをLOCK (OFF) にしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作ができなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。

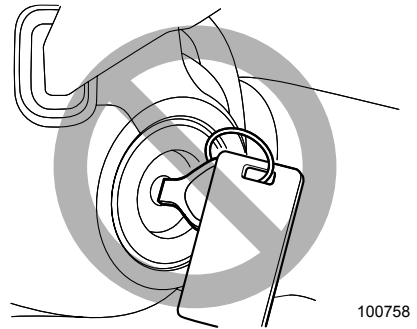


101085

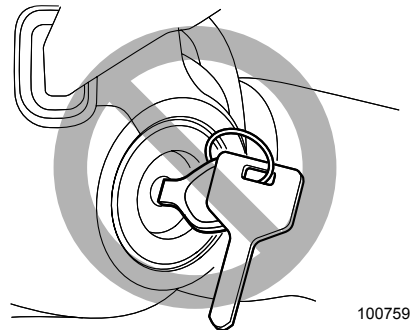
■キーホルダーや他のキーに気をつけて

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たりキーを回してしまうおそれがありますので、注意してください。
大型のキーホルダーはキーに付けしないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けしないでください。また、重いものをキーに付けしないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき



キーグリップに他のキーがかさなっているとき



■ABSを過信しないで

ABSは必ずしも制動距離を短くするものではありません。

下記の道路などではABSが作動した場合、ABSが付いていない車よりも制動距離が長くなる場合があります。

- マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
- 道路のつなぎ目などの段差
- 凹凸路、石畳などの悪路
- 下り坂での旋回
- 路肩に草や砂利が多い道路
- 砂利道
- 雪道（新雪路、圧雪路、凍結路など）

ABSが付いていない車と同様、十分な車間距離をとって安全運転を心がけてください。

☆3-71ページ参照

■洗車後や水たまりを走行した後はブレーキの効き確認を

水たまり走行後や洗車後、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。ブレーキの効きが悪い場合は前後の車に充分注意して低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏んでください。

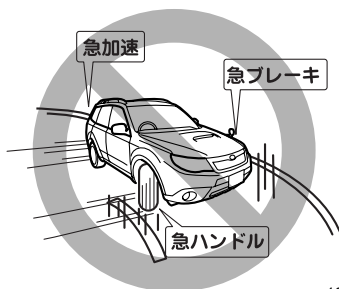


101086

■ぬれた路面や滑りやすい路面では慎重に

ぬれた路面や滑りやすい路面の走行は、慎重に行ってください。とくに雨の降り始めは注意してください。また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転数が急上昇するような急なシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆1-23ページ参照



101497

■雨天の走行は速度を落として

- 路面がぬれると滑りやすくなります。
通常より注意して安全運転を心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。スピードを落として走行してください。とくに摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起りやすいので注意してください。

■冠水した道路を走行しないで

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジン損傷などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

■下り坂ではエンジブレーキの併用を

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジブレーキを併用してください。
- シフトダウンせずにエンジンの低回転領域でブレーキを使用し続けると、ブレーキブースター（制動力倍力装置）のアシスト力（補助力）が弱くなり、ブレーキペダルを踏むとき通常より強い力が必要となる場合があります。

〈エンジブレーキとは〉

走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに入らないようにしてください。

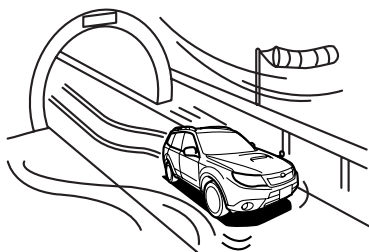
〈シフトダウンとは〉

- マニュアル車では5→4、4→3、3→2、2→1のように低速ギヤへ変速することをいいます。
- オートマチック車ではセレクトレバーを[D]の位置からマニュアルゲートに動かし、パドルシフトの⊖側レバーを手前に引くか、セレクトレバーを⊖側（ダウン側）に操作することで低速ギヤへ変速することをいいます。
- シフトダウンによるエンジブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

■横風に注意して

ハンドルを確実に握り、安全な速度で運転してください。

走行速度が速過ぎると、ハンドルを確実に握っていても不意の突風で車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。



101088

■高速道路に入る前には

- 高速道路に入る前には、燃料を十分に補給してください。高速道路上での燃料切れは危険です。
- タイヤ空気圧を確認してください。空気圧不足の状態では高速走行するとタイヤがバースト（破裂）するおそれがあり大変危険です。

☆6-7、8-6ページ参照

- 万一のために停止表示板（または停止表示灯）を車に備えておいてください。高速道路上に停車する場合は、停止表示板（または停止表示灯）の設置が法律で義務づけられています。（別売り）

■燃えやすいものに注意して

路上に燃えやすいもの（枯葉、わらなど）があると排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。燃えやすいものの上や付近で停車または走行するときは、注意してください。



101089

■こんなことにも注意してください

- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
- 車間距離は充分とってください。
- ぬかるみなどでタイヤがスタック（立ち往生）したときはタイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。

■適切なエンジン回転数で運転を

- 新車の慣らし運転中（1,000 kmまで）……4,000 rpm以下
- 慣らし運転後……タコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン未満

■ブレーキパッドの摩耗警報

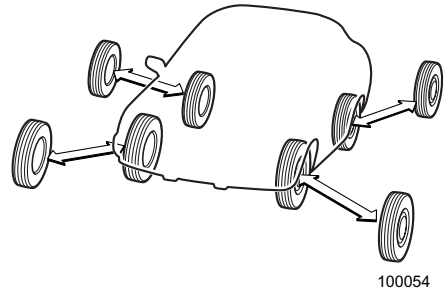
パッドが摩耗して交換時期になるとブレーキペダルを踏むたびに金属的な摩擦音（キーキー音）がします。

音が発生したときはすみやかにスバル販売店で交換してください。

雪道走行するときには

■4輪とも冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）で

- 雪道走行が予測される場合は冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を用意してください。一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップし危険です。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、4輪とも必ず指定空気圧・指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。



☆1-17、5-2ページ参照

■控えめな運転を心がけて

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。タイヤのグリップ力が失われ、車の進路をコントロールできなくなる場合があります。
- 発進時は、2速ギヤの使用をお奨めします。
 - ー オートマチック車：
セレクトレバーをマニュアルモードの2速にします。
また、グレードによりマニュアルモード選択時にはパドルシフトで2速にすることもできます。

☆3-57、3-59ページ参照

- ー マニュアル車：
チェンジレバーを“2”にします。

☆3-43ページ参照

■タイヤチェーンは前輪に

- タイヤチェーンは、予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常用装備品です。タイヤチェーンは、前輪に装着してください。
- タイヤチェーンを取り付けると、後輪が滑りやすくなります。後輪が滑り出すと、ハンドルで車の進路をコントロールすることが難しくなります。急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避け、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。



101090

☆5-2ページ参照

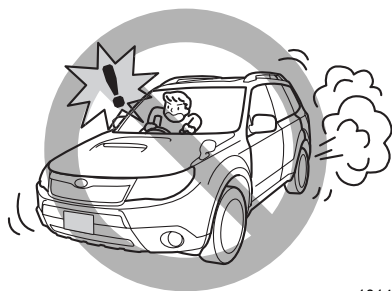
駐・停車するときには

■燃えやすいものの近くに車を止めないで

- 枯れ草、紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、車を止めないでください。排気管や排気ガスの熱により火災につながるおそれがあります。
- 車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30 cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、火災につながるおそれがあります。

■停車中は空吹きをししないで

排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。



101496

■坂道に駐車するときは

坂道に駐車する場合には、無人で車が動き出すなど思わぬ事故につながることはないよう、次の処置をしてください。

① 駐車ブレーキを充分にかけ、車が動き出さないことを確認します。

☆5-10ページ参照

② マニュアル車：チェンジレバーを以下の位置に入れます。

下り坂；“R”

登り坂；“1”

オートマチック車：セレクトレバーを **P** に入れます。

③ 輪止め（タイヤストッパー）をします。

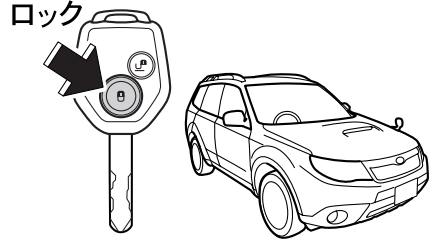
なお、急な坂道での駐車は避けてください。

■車の移動はエンジンをかけて

坂道などで、エンジンをかけなくても車を動かせる場合でも、必ずエンジンをかけて移動してください。エンジンをかけないで移動すると、ブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

■車から離れるときは

- 車から離れるときは、必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを切ってください。
- 車から離れるときは、必ず施錠をしてください。
- お子さまや介護が必要な方を、車内に残したままにしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。



101281

■いきなりドアを開けないで

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してください。後ろから車、オートバイ、自転車などがきている場合があり思わぬ事故につながるおそれがあります。



101092

■エンジンをかけて駐車するときは注意

- 仮眠するときは必ずエンジンを止めてください。仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、チェンジレバー、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。



100059

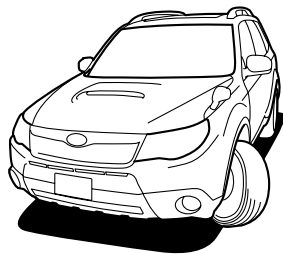
■ハンドルをいっぱい回した状態を長く続けないで

車庫入れなどで、エンジンをかけたままハンドルをいっぱい回した状態を長く続けないでください。(5秒以上続けないでください。)長く続けると以下の状態になるおそれがあります。

- 油圧パワーステアリング装備車の場合
オイルの潤滑不良を起こし、パワーステアリング装置が損傷することがあります。

- 電動パワーステアリング装備車の場合
ハンドル操作力が重くなることがあります。車庫入れなどでハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいまで回した状態を長く続けた場合は、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。

これはコンピューターやモーターが過熱することを防止するためにシステムの作動を制限している現象で、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がるため、通常の操作力に戻りますが、システムが過熱する使いかたを繰り返すと、故障の原因となります。



101093

■冷却ファンに注意

ボンネットを開ける場合は、冷却ファンにご注意ください。エンジンの温度が高い状態では、エンジンが停止していてもエンジンスイッチをONにすると、エンジンルーム内の冷却ファンが作動することがあります。

回転している冷却ファンに触れるとけがをするおそれがあります。

SRSエアバッグシステム

■ SRSエアバッグシステムとは

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。

全てのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS カーテンエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

<運転席SRSエアバッグ>



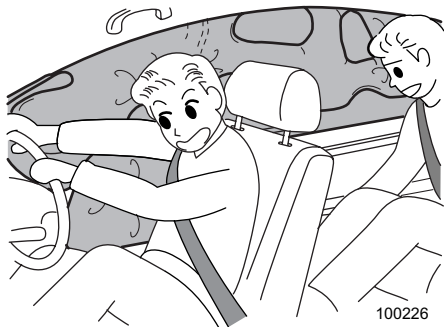
100224

<助手席SRSエアバッグ>



100225

<SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグ>



100226

■シートベルトは必ず着用して

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRS エアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRS エアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

☆2-60、2-73ページ参照

■お子さまを乗せる場合は

- お子さまは後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまには、スバル純正チャイルドシートを使用してください。
スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付の専用取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。
SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆1-10、2-97ページ参照

こんなことにも注意を

■クラッチ・スタートシステムについて（マニュアル車）

マニュアル車にはエンジン始動時の誤操作防止機構（クラッチ・スタートシステム）が装着されています。

クラッチペダルをいっばいに踏み込まないとエンジンがかかりません。

☆3-40ページ参照

■AWD車は万能ではありません

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ=全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、滑りやすい路面、積雪路などでは2WD（二輪駆動）車に比べて安定した走行ができますが、急ブレーキ、急ハンドル時は差がありません。安全な速度で走行してください。

☆3-63ページ参照

■走行中は携帯電話を使わないで

法律により、自動車の運転者が走行中に携帯電話などを手で保持して通話したり、メールの送受信などのために画面を注視することは禁止されています。



100237

■アクセサリーの取り付けに注意

ウインドウにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、助手席 SRS エアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでけがをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。



100238

■洗車やワックスがけのとき

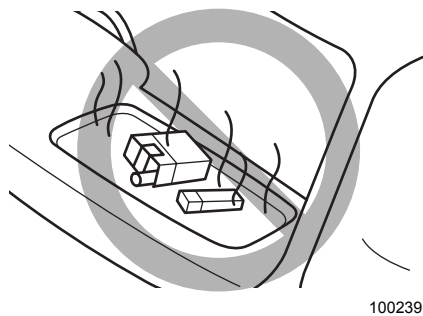
洗車やワックスがけを行う場合は、車体の一点に強い力がかからないように注意してください。

力のかけ具合や場所によっては、万一の場合、車体がへこむおそれがあります。



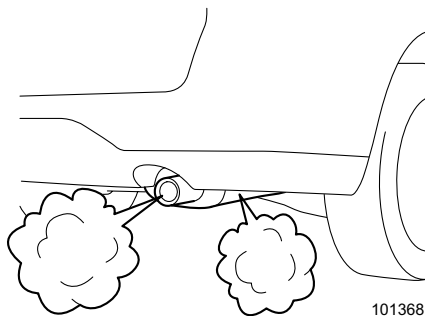
■車内にガスライター、スプレー缶などを放置しないで

炎天下で駐車するときは車内にガスライターやスプレー缶などを放置しないでください。車内が高温になるためガスライターやスプレー缶などが爆発するおそれがあります。



■排気管をときどき点検して

排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷など、排気管の異常に気づいた場合は、必ずスバル販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。



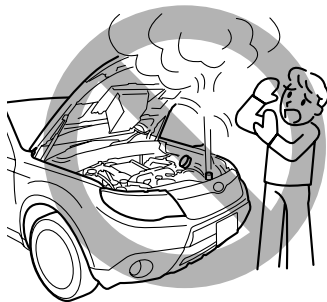
■リヤゲートを確認して

リヤゲートが閉まっていることを確認してください。確実に閉まっていないまま走行すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

■ラジエターが熱いときキャップを外さないで

ラジエターやリザーバタンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出すおそれがあり危険です。

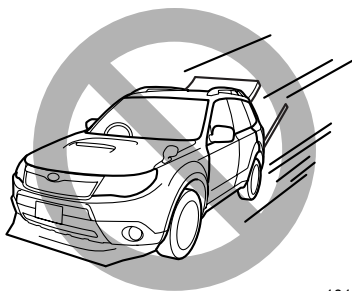
☆6-3、6-4ページ参照



101095

■不正改造は絶対にしないで

- 車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。火災など思わぬ事故につながる可能性があります。
- スバルが国土交通省に届け出た部品以外のものを取り付けると、不正改造になることがあります。スバル販売店にご相談ください（タイヤ、ホイール、マフラーなど）。

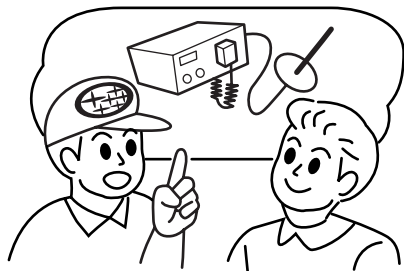


101096

■電装品、無線機を取り付けるときには

次の場合、電子制御系統に異常が起きたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 取り付け、取り扱いを誤る
 - 容量の異なるヒューズを使用する
 - スバル純正以外の部品を使用する
- 詳しくはスバル販売店にご相談ください。



100069

■純正部品をお奨めします

マフラー、エアクリナーエレメント、オイル、冷却水、オイルフィルター、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合や、故障の原因になることがあります。

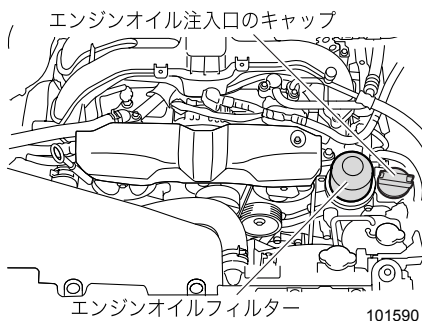
例えば、マフラーやエアクリナーエレメントの変更はエンジンの損傷を招くおそれがあります。スバル純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。詳しくは「メンテナンスノート」をご覧ください。

■点検整備をするときは

- スバル販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識の全てを兼ね備えています。お客様が安心してお車にお乗り頂くためにも、点検整備はお近くのスバル販売店にご用命ください。
- 日常点検整備でエンジンルーム内の点検を行うときは、エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに充分ご注意ください。思わぬけがをすることがあります。また、ベルトカバーに触れないでください。手がすべるなど、思わぬけがをすることがあります。

☆6-2ページ参照

- エンジン始動中または停止後は、エンジンオイルフィルターが高温になっています。エンジンが完全に冷えるまで、エンジンオイルフィルターには触れないでください。
- エンジンオイル注入口のキャップを脱着するときは、オイルフィルターに触れないよう充分注意してください。手や指を挟んだりやけどをするなど、思わぬけがをすることがあります。



101590

- AWD車でエンジンを回したまま点検を行うときは、車が動かないようにするため、必ず4輪ジャッキアップ、または4輪ローラー上で行い、空吹かしや急制動はしないでください。

保証書・メンテナンスノートについて

「メンテナンスノート」には、保証の内容および点検・整備について記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

■保証について

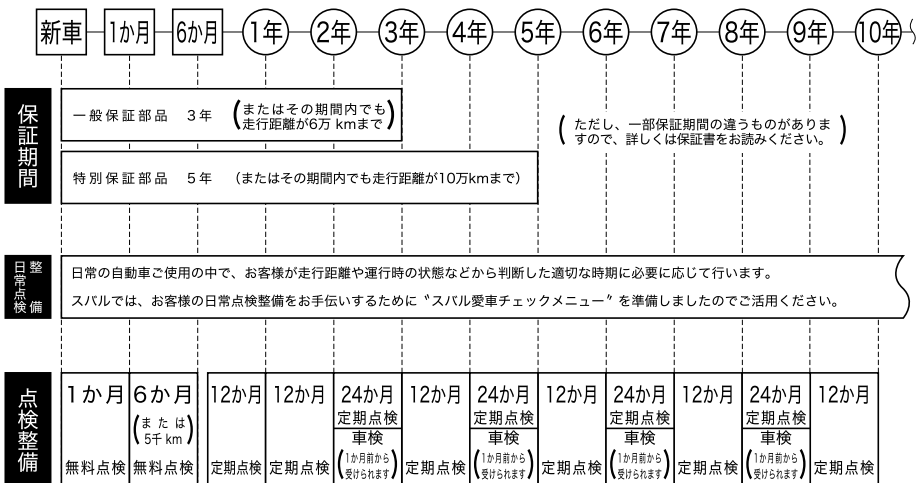
保証書には、万一故障が起きたときに無料で修理が受けられる条件や範囲を記載しています。

一度お読みになり、条件や範囲などについてご確認ください。

■点検・整備について

- 法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任が明確にうたわれています。
- メンテナンスノートには点検・整備の時期ややりかたなどを記載しています。よく読んで必ず行ってください。
- 日常点検整備や他の点検整備を行ったときは、必ずその結果をメンテナンスノートに記入してください。
- 車を納車してから1か月後および6か月後（ただし、6か月以内に走行距離が5千 kmを超える場合は5千 km時点）に無料点検を実施しています。

保証期間と点検整備時期



101041